

令和5年10月25日

滋賀県内経済情勢報告

(令和5年10月判断)

1. 総論

【総括判断】 「県内経済は、持ち直している」

項目	前回 (令和5年7月判断)	今回 (令和5年10月判断)	前回比較
総括判断	持ち直している	持ち直している	→

(注) 5年10月判断は、前回7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

(判断の要点)

個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、回復しつつある。雇用情勢は、持ち直しつつある。

【主な項目の判断】

項目	前回 (令和5年7月判断)	今回 (令和5年10月判断)	前回比較
個人消費	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	→
生産活動	回復しつつある	回復しつつある	→
雇用情勢	持ち直しつつある	持ち直しつつある	→
設備投資	5年度は前年度を上回る見込みとなっている	5年度は前年度を上回る見込みとなっている	→
企業収益	5年度は減益見込みとなっている	5年度は減益見込みとなっている	→

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが景気の下押しリスクとなっている。また、物価上昇等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

【主な項目】

■ 個人消費 「緩やかに回復しつつある」

百貨店・スーパー販売は、値上げによる買上点数の減少がみられるものの、客単価の上昇により売上は堅調に推移している。

コンビニエンスストア販売は、人流回復の影響を受け来店客数が増加していることなどから、売上は増加している。

ドラッグストア販売は、化粧品の売れ行きが堅調であったほか、猛暑の影響により季節商品や酒類が好調であることから、売上は増加している。

ホームセンター販売は、猛暑の影響により屋外活動が控えられたことから、園芸用品やアウトドア用品などの売れ行きが伸び悩んでいる。

家電大型専門店販売は、猛暑の影響によりエアコンの売上が好調であったものの、客足の減少などから、横ばいの状況にある。

乗用車の新車登録届出台数は、普通・小型車、軽自動車ともに前年を上回っている。

観光動向は、新型コロナウイルス感染症の5類移行による経済社会活動の正常化に伴い、宿泊客の増加が続いていることから、回復しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 値上げの影響により買い上げ点数は減少傾向にあるものの、店舗改装や人流の回復に伴い来客数が増加した。加えて、客単価の上昇により売上高としては前年比で増加している。(百貨店・スーパー)
- 湖水浴に多くの人が訪れるなど、人流回復の影響を受け来店客数が増加したことなどから、売上は好調であった。(コンビニエンスストア)
- マスクやコロナ検査キットの売上は下落しているものの、外出機会の増加により化粧品の売れ行きが堅調であったほか、猛暑の影響により制汗剤やUVカットケア商品などの季節商品、酒類が好調であった。(ドラッグストア)
- 今夏は猛暑の影響により屋外での活動が避けられる傾向にあったことから、園芸用品やアウトドア用品の需要は昨年よりも低下している。(ホームセンター)
- 猛暑の影響によりエアコンの売上が好調であったものの、来店客数の減少などもあり売上は前年を下回っている。(家電量販店)
- 新車について、納車の長期化は継続しているものの、半導体等の部品供給不足の影響が解消しつつあることから、順調に配車されている。(自動車販売店)
- 新型コロナウイルス感染症の5類移行後は、個人旅行者を中心に宿泊客数が増加している。特に8月はびわ湖大花火大会やお盆期間にかかる需要増により客単価が大幅に上昇したため、非常に好調であった。(宿泊)
- 客足が好調であるほか、値上げの影響により客単価が上昇していることから、売上は新型コロナウイルス感染症流行前の水準を上回っている。(飲食)

■ 生産活動 「回復しつつある」

鉱工業指数(生産)は、半導体製造装置の需要が旺盛である「生産用機械」のほか「化学」などの業種が高水準で推移しており、足下では自動車関連の生産が安定しつつあるとの声が聴かれていることから、生産活動は回復しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 半導体製造装置の需要が好調であることから、生産ラインの稼働についても堅調である。7、8月は平常通り稼働しており、足下9月については、フル稼働状態であった。(生産用機械)
- インバウンド客の増加やマスクの着用機会の減少により、サプリメントやクレンジングを中心としたスキンケア商品が回復傾向にある。(化学)
- 航空機向けの製品について、装置メーカーの在庫調整を受けており発注は落ち着いているものの、徐々に回復しつつある。(はん用機械)
- 自動車部門について、部品供給問題が落ち着きを見せており、生産が安定しつつあることから、売上高は前年を上回っている。(金属)

- 足下8～9月では自動車生産における半導体不足が緩和されつつあることなどから、生産台数は堅調に推移している。
(輸送機械)
- 全体的に受注が低迷しており、中でもPC・スマホ向けについては、買い替え需要の一巡により受注が落ちているものの、一部の製品では回復の兆しがある。
(情報通信機械)

■ 雇用情勢 「持ち直しつつある」

有効求人倍率は、引き続き1倍台を超える水準で推移しているものの、新規求人数は前年を下回る水準となっている。

(主なヒアリング結果)

- 機器のメンテナンスを行うサービスマンが不足している。中途入社募集はしているが、求める人材の採用は進んでいない。
(はん用機械)
- 現場の正社員や包装作業を担当するパートの減員に伴い、採用活動を行っているが応募が無く、不足感がある。
(化学)
- 工場の製造オペレーターは三交代制勤務のため敬遠される傾向にあることから、地元での高卒採用に苦戦しており、不足感がある。
(化学)
- 新卒の採用市場は一段と厳しさを増しているため、類似研究を行う大学や地元の工業高校へのアプローチを積極的に行っている。
(金属)
- 万博工事について、現在受注は無いものの、仮に注文があったとしても、人手不足により手が回らない状況にある。
(建設)
- 2024年問題により人手不足に陥ることが懸念されるため、ドライバーの増員や中継拠点の増設などの時間外労働削減に向けた取組を検討している。
(陸運)
- 事務職はスムーズに採用できるが、接客業は不足しており、応募はあるものの求める人材とのミスマッチにより採用に至らない。
(百貨店・スーパー)

■ 設備投資 「5年度は前年度を上回る見込みとなっている」 「法人企業景気予測調査(全産業)」5年7-9月期

5年度の設備投資は、全産業で24.0%増(対前年度増減率、以下同じ)の見込みとなっており、産業別では、製造業で21.8%増、非製造業で26.4%増の見込みとなっている。

■ 企業収益 「5年度は減益見込みとなっている」 「法人企業景気予測調査(全産業)」5年7-9月期

5年度の経常利益は、全産業で▲5.3%(対前年度増減率、以下同じ)の減益見込みとなっており、産業別では、製造業で6.5%の増益見込み、非製造業で▲35.4%の減益見込みとなっている。

【その他の項目】

■ 住宅建設 「前年を下回っている」

新設住宅着工戸数でみると、貸家などが減少していることから、全体で前年を下回っている。

■ 公共事業 「前年を上回っている」

前払金保証請負金額でみると、独立行政法人で増加していることから、全体で前年を上回っている。

■ 企業の景況感 「上昇」超となっている 「法人企業景気予測調査(全産業)」5年7-9月期

企業の景況判断 BSI でみると、現状判断は「上昇」超となっている。先行きについては「下降」超の見通しとなっている。

■ 企業倒産 「件数は前年と均衡しており、負債金額は前年を下回っている。」

倒産件数は前年と均衡しており、負債金額は前年を下回っている。

お問合せ先：大津財務事務所 財務課 TEL077-522-6455